

鵜沼自治連だより

発行/鵜沼地区町内会自治会連合会
発行人/石井 博之
事務局/鵜沼海岸 2 丁目10-34
鵜沼市民センター内
Tel.33-2001・FAX33-2203

鵜沼自治連は鵜沼地区の町内会・自治会のつながりです

防災を核として地域生活の向上を図っています

明けましておめでとうございます

令和8年 正月



年頭のご挨拶

鵜沼地区町内会自治会連合会

会長 石井 博之



新年あけましておめでとうございます。

さぞかし抱負に満ちた新しい年を迎えられたことと、拝察致します。

昨年は大きな自然災害はなく穏やかな年となるかなと安堵していた所、年末になり青森県東方沖を震源地とする震度6強の地震が発生しその後も余震が続きました。

また大分地方では、170棟以上が延焼する大規模の火災が発生しました。密集した家屋や狭隘な道路それに空き家が点在したことが、消火の妨げになり大火の要因になったといわれています。

自然災害は避けられませんが、英知をあげて被害を最小限に抑える努力は必要です。「備えあれば憂いなし」という格言もあります。

今後最大限の予防策の傾注が必要な災害は、「南海トラフ地震」で政府の地震調査委員会では、20年以内の発生確率は60～90%と云われています。それに「首都圏直下型地震」です。

自治連では、一昨年8月から54町内会・自治会を対象にアンケート調査を実施しました。鵜沼地区でも担い手不足・なり手不足が表面化してきたためです。

調査結果は、2025年2月、8月の理事会に12月には臨時理事会を開催し報告と説明を行いました。

時代と共にまちは、少しずつ変貌して行きます。まちを構成する人たちも同様に変わって行きます。特にコロナ禍以降は変化が急激で、働き方や自意識の変化が、町内会・自治会の運営に多面的な影響を与えているのが現状です。

2025年度鵜沼地区総合防災訓練開催される



2025年11月15日(土)午前10時～午前11時50分の約2時間を秋空の中、改装された鵜沼小学校で実施致しました。

年度当初は10月25日(土)に開催を予定していましたが、小学校の運動会の開催日と重なることから、11月15日(土)へ変更となりました。その影響もあり、起震車(地震体験車)を呼ぶことが出来ませんでした。起震車は人気のコーナーであったため、代替案を検討したところ、藤沢市消防局の全面的なご協力により、はしご付消防車が来ることになり、消防隊員による救助のデモンストレーション・搭乗体験を実現いたしました。「ハシゴの高さ」にあらためて驚かれた方も多かったのではないかと思います。

災害からいかに身を守るか、被災後、いかに生活

していくか普段から気にかけて準備しておきたいものです。鵜沼地区は道路が狭く、大規模火災のリスク、避難時の道路渋滞など地域特有の問題、課題があります。

年に1度の地区防災訓練ですがこれを契機として、まずは身の回りの防災、家庭備蓄(ローリングストック)をはじめとする準備状況を点検し、万が一に備えたいものです。



初めてのハシゴ車救助・体験訓練

ひさし振りの防災リーダー研修会

12月13日(土)に鵜沼市民センターにて藤沢市災害対策課の職員を講師に防災リーダー研修会が開催されました。防災リーダー研修会はコロナ禍以前から途絶えており、久方ぶりの開催となりました。前半は「迫りくる大災害に備える」をテーマに映像にて南海トラフ地震の発生への情報と対応から始まり、各家庭に配布されている防災ナビの内容を配布パンフレット(これだけは知っておこう)を基に丁寧に

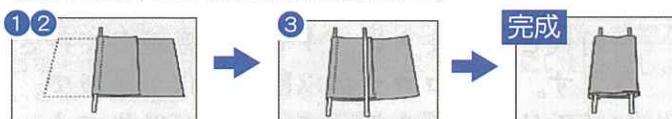
確認し、改めて再認識いたしました。その後実技体験訓練に移り、簡易担架の作り方と搬送とロープワークで基本的な結び方を久し振りに体験しましたが、忘れていた事が多く再度体験する事で思い出し、普段からの繰り返し訓練がいかに重要であるかを痛感いたしました。



応急担架の作り方

丈夫な棒や毛布を使って担架を作成できます。

- ①毛布を広げ、3分の1の位置に1本の棒を置きます。
- ②棒を包むように毛布を折り返します。
- ③折り返した毛布の端にもう1本の棒を置き、その棒を包むように残りの毛布を折り返します。



錦秋の市民センターまつりに参加 好評のたこ焼きとポップコーンを販売

馴れ親しんでいた「公民館まつり」の名称が、今回から「市民センターまつり」に変更となり、10月18日(土)、19日(日)の2日間に開催されました。



鵜沼地区自治連は昨年と同様に大類敏行事業部長のもと、たこ焼き販売で参加をしました。併せて、鵜沼海岸中央町内会の方々のご協力を得て、ポップコーン販売も。今年はいくげぬまあそび隊のメンバー6名が

お手伝いとして、初参加してくれました。

準備段階ではたこ焼き機がうまく作動せず、ヒヤリとする一場面もありました。

18日は穏やかな天候に恵まれた1日であったにもかかわらず、例年に比べ、来客の出足は思いのほか遅く、一時は売れ行きを心配しました。火加減に苦戦しながら作ったたこ焼きは多くの方から好評を得て、200食以上を販売することが出来ました。

市民センターまつりへの参加は、鵜沼地区の活発化を目指している自治会・町内会にとって、その活動を広く知ってもらうための良い機会の場となっています。

第6回鵜沼地区地域団体合同会議を開催 鈴木市長が来訪、新たな展開へ

2025年12月20日(土)13:30~15:00 鵜沼市民センター第3談話室にて第6回鵜沼地区地域団体合同会議が開催されました。今回は2025年7月30日に起きたカムチャッカ半島沖地震による津波警報発令時の避難や対応に様々な課題が浮き彫りになり、鵜沼地区を代表する地域団体同士で今後、地域団体としてどう行動するのか？どう対応するのか？について意見を出し合いました。なお今回の地域団体合同会議は、市が企画する「市民と市長との交流事業」の対象になり、市長が会議を視察され、会議の終了時には講評を頂きました。

《ワークショップの概要》

想定：過去の大地震・津波(M8.7、津波高8.8m、到達まで8分を想定) 議論は「発生前(平時)→発災直後→避難所開設後→復興段階」



ワークショップの様子

の4フェーズに分け、各フェーズで地域団体としての具体的な行動や役割を出し合いました。

《主な意見(要点)》

フェーズ1：平時(発生前の準備)

- ・家族や自治会役員の連絡方法を確認する
- ・飲料水・非常食などの備蓄を整える
- ・ハザードマップで避難経路を再確認する
- ・要支援者の状況把握を日常的に行う

フェーズ2：発災直後

- ・まず自分の命を守る行動(高い場所・内陸方向へ避難)
- ・ラジオ・テレビ・インターネットで正確な情報を収集
- ・家族や近隣の安否を速やかに確認



鈴木市長も参加されました

フェーズ3：避難所開設後

- ・近隣の避難所の状況を確認して共有する
- ・地区災害対策本部と連携・調整を行う
- ・避難所運営のサポート、支援物資の仕分け・配布を手伝う

フェーズ4：復興段階

- ・被災ごみの撤去・収集支援
- ・新たに発生する住民の困りごとの把握と支援
- ・犯罪防止のための見回りや安全確保
- ・引き続き災害対策本部と情報連携を行う



グループ発表の様子

《今後の取り組み》

ワークショップでは多くの意見が出て活発な議論となりました。各グループの意見は合同会議プロジェクトで整理し、今後も地域団体ごとの災害時役割について引き続き協議を進めていきます。

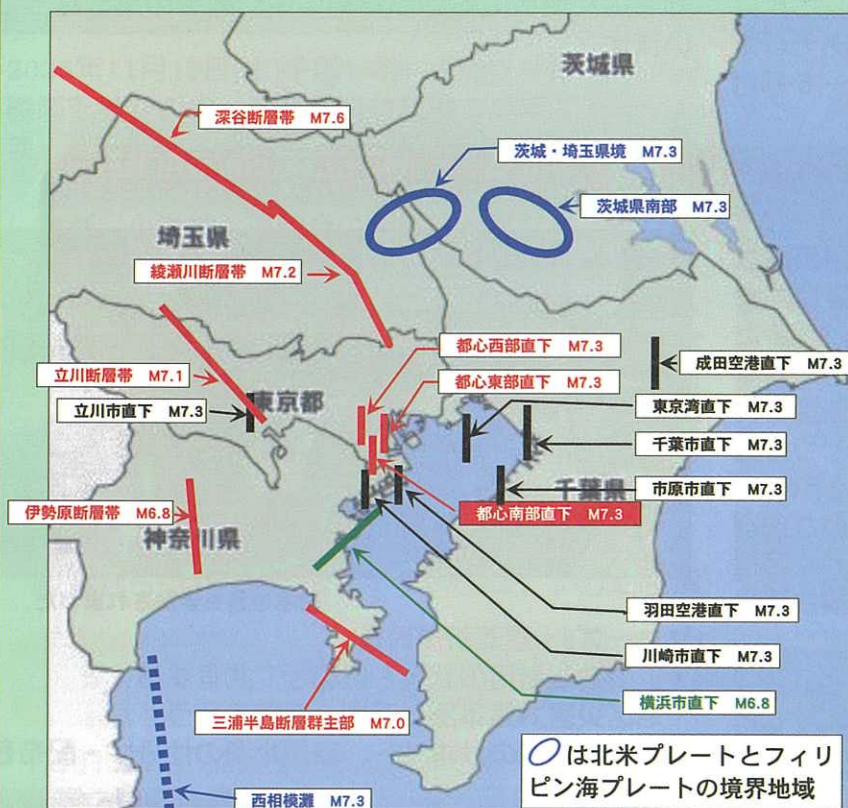


最後に視察の講評を頂きました

首都直下地震、被害想定見直される

政府の諮問機関「中央防災会議 防災対策実行会議 首都直下地震対策検討ワーキンググループ」が12年振りに首都直下地震の被害想定を見直し、公開されました。今後30年以内に発生確率が70%と極めて高く、マグニチュード7級の首都直下地震は何处で発生するか分っていません。政府の作業部会は震源地や発生の仕組みが異なる19タイプを検討し、その中で首都機能への影響が大きい「都心南部直下地震」(M7.3)を防災対策の対象に選びました。

それによる死者は18,000人で東京が8,000人、神奈川は5,200人と想定されました。しかしこの地震は首都直下で想定される地震の一つに過ぎず、実際に起きるとは限りません。作業部会が選定した19タイプは神奈川や千葉、埼玉、茨城にも震源を設定。神奈川では主要活断層帯の「三浦半島断層群」の地震(M7.0)、「伊勢原断層帯」の地震(M6.8)、過去の地震から西相模灘の地震(M7.3)も含む南関東においてはM7クラスの地震はどの場所でも発生する可能性がある」と発表している。神奈川の死者5,200人のうち8割の4,200人が火災が原因で、建物倒壊、家具の転倒などで800人が亡くなるとみている。また関東大震災に匹敵するM8級の巨大地震の被害も算出しています。



検討対象とした(M7クラス)19カ所

都心南部直下地震では藤沢市の震度は6弱ですが大正関東大震災の再来では震度7となり津波は高さ1mの到達時間は5分、最大高さは9mと想定されています。関東大震災の再来は30年以内の発生確率は0~6%と低いが発生から100年余りが過ぎており、作業部会では中長期的な対策として考慮するとしている。

私達の出来る対策の一つに感震ブレーカーがありますが、総合防災訓練でご協力頂いている

ユーティリティ・ソリューションズの中根様から紹介された感震ブレーカー「震太郎」を紹介します。アースのあるコンセントに取り付け震度5強を感知すると、自分で漏電類似信号を作って主幹ブレーカーを落とす仕組みです。是非ご確認ください。



あ と が き

自然災害と言えば地震、台風、水害等を思い浮かべますが、昨年の酷暑は災害と言える程の暑さで群馬県伊勢崎市では41.8℃を記録し、全国で猛暑日(35℃以上)9,385地点と過去最高で熱中症で救急搬送された方は10万人を越え、死亡者も1,000人規模と推定されています。

昨年来、山林火災が続出していますが、丙午の年は火災が多いと言われています。予断を許さない年になりそうですが、皆で力を合せ午年に因み防災に前進・飛躍の年になるようにいたしましょう。ご協力をお願いいたします。

編集委員：大田 哲夫 吉田 昌代